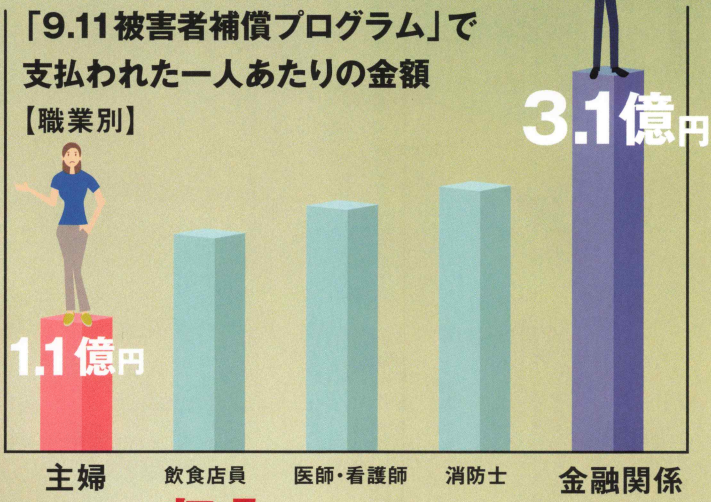
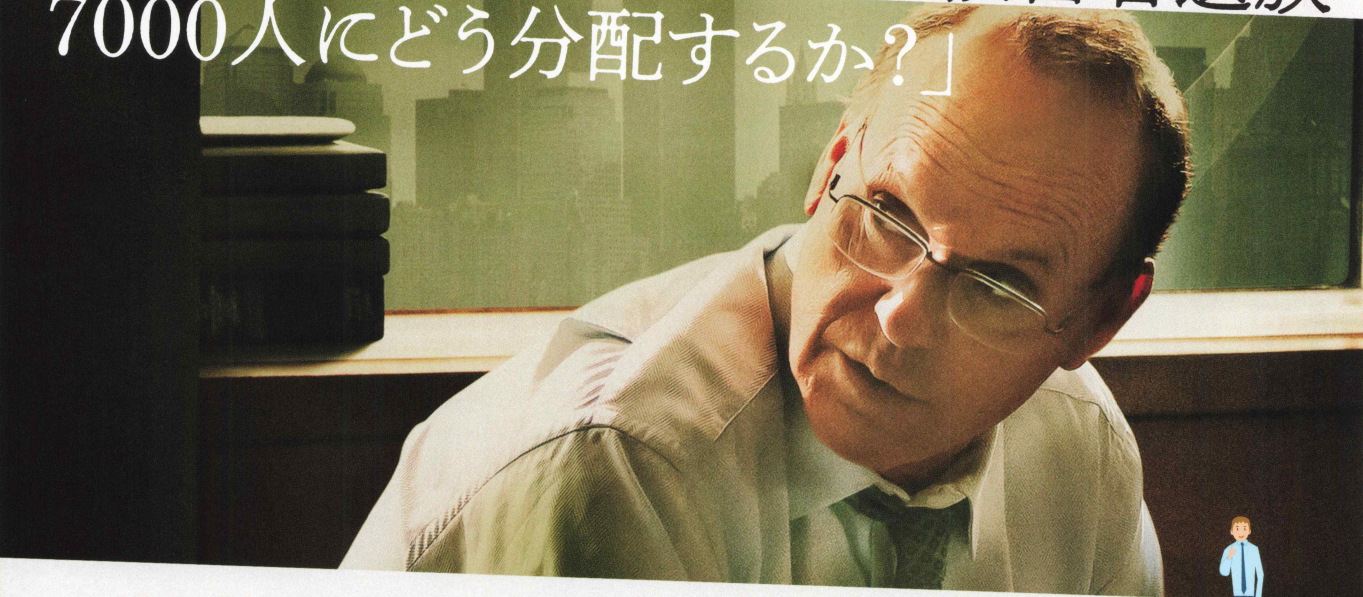


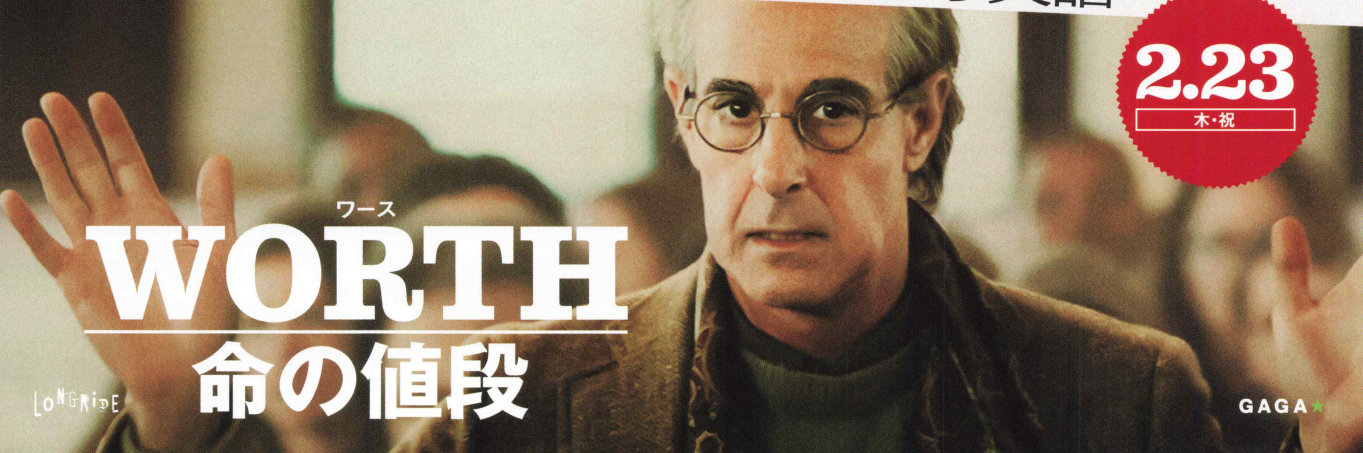
「限られた補償金を9.11テロ被害者遺族7000人にどう分配するか？」



収入から計算された「命の値段」には大きな差が!!

出典:Final Report of the Special Master for the September 11th Victim Compensation Fund of 2001 P55のデータを引用しグラフを作成。2023/1/20時点の米ドル/円の為替レートで換算。

究極の問いに挑んだ弁護士たちの実話



2.23
木・祝

ワース
WORTH
命の値段

「命」と「お金」、禁断の計算式に各界騒然!

人の命に値段などつけられる筈がない。
この、あまりにも難しい問題に唸らざるを得ない。
そこに自ら立ち向かっていく主人公に

不謹慎ながら、しびれてしまった。

田原総一郎 (ジャーナリスト)

調停のプロによる独自の計算式、ルールが完璧でないから正しい補償金額を出せないのではない。ときに前に進むよりも、いや、前に進むためにこそ、**公正さ、道義的正しさ**の追求が欠かせない現実をクリアに描き出した。

風間直樹 (『週刊東洋経済』編集長)

人の命に値段はない。

そんな「常識」は9.11の被害者には適用されないのか。
遺族の言葉と涙が、ケン・ファインバーグ弁護士率いる弁護士団を動かす。遺族が望んだのは金ではなく、愛する人を失った痛みや悲しみを共有する場だったのでは。

望月衣塑子 (東京新聞記者)

この映画は喪失、悲しみ、苦悩、怒り、を容赦なく映し出す。
しかし同時にそれらを受容し諦めず前進する人たちの、つまり

私たちの物語でもある。

三輪記子 (弁護士)

about the MOVIE

9.11同時多発テロの発生直後、約7000人ものテロ被害者と遺族に補償金を分配する大事業に挑んだ人々がいた。年齢も職種もバラバラな被害者たちの「命の値段」をどうやって算出するのか? これは、厳しい批判に晒されながらも、遺族の苦悩と向き合い、究極の難題に挑んだ弁護士チームの驚くべき2年間の軌跡である。

アカデミー賞作品賞『スポットライト 世紀のスcoop』製作陣が手がけ、オバマ元大統領夫妻の製作会社がいち早く配給権を獲得。新たな社会派エンターテインメントの傑作がここに誕生した!

経済学は、人々を一律に数字で取り扱おうとする。

この映画は、その罪深さを告発している。人間はひとり一人異なる人生の背景を持つ

ている。**カネを超えて**、その背景に迫る主人公の姿に、魂を揺さぶられた。

森永卓郎 (経済アナリスト)

もう一つの9.11だ。テロとの戦いの舞台裏でこんなことが

起きていたのか! 知らなかった自分を恥じた。命の計算式からはアメリカ社会の素顔が垣間見えてくる。一人の弁護士の葛藤を通して「我々にとって何が大切なのか?」重い命題を突き付けられた。

柳澤秀夫 (ジャーナリスト)

航空業界と富豪しか救うつもりのない政府、頭てっかちの弁護士、
翻弄される犠牲者の家族。

これを「美談」にするのが、**アメリカの民主主義**だ。

斎藤幸平 (経済思想家)

生命の価値は誰もが同じはずだが、交通事故の死亡慰謝料には差がつけられる。

「公正 (フェア) な補償額はどのように決めるのか」という**倫理的な難問**が、見事なエンターテインメントになった。

橘玲 (作家)

ワース WORTH 命の値段

出演: マイケル・キートン スタンリー・トゥッチ エイミー・ライアン

2019年 / アメリカ / 英語 / 118分 / カラー

提供: ギャガ、ロングライド 配給: ロングライド

© 2020 WILW Holdings LLC. All Rights Reserved.

longride.jp/worth/

2.23 木・祝 **ロードショー**
ムビチケオンライン券 ¥1,500 (税込) 発売中



公式サイト・予告編はこちら

